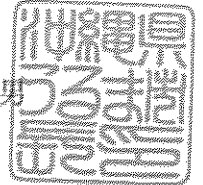


平成19年5月1日
う 建 土 第 8 1 号

国土交通省道路局長 殿

沖縄県うるま市長
知念 恒 男



中期的な計画の作成にあたっての意見について（回答）

平成19年4月2日付け、国道企第114号にて依頼のありましたみだしについて別紙のとおり提出いたします。

中期的な計画の作成にあたっての意見について

1. 今後の道路政策や道路の整備・管理についての意見

・重点化を進める上で特に優先度の高い政策

1) 国道329号沖縄バイパスの早期整備

国道329号沖縄バイパスについては、昭和63年に調査が実施され、地域住民、市、県との調整を重ね、平成10年の沖縄市、旧具志川両市から整備要請に始まり、2回の総決起大会も開催されております。

平成13年度には、事業実施のための都市計画決定に向けての素案が作成され、環境アセス等も作成されているが都市計画決定には至っていない状況である。

沖縄・うるま両市は、中部集積圏を構成する中核都市であるとともに、中南部圏と北部圏とを結ぶ重要な位置にあって、産業・都市機能の集積が進みつつある。

国道329号沖縄バイパスは、これらの地域特性をふまえ、中部圏における両市の拠点性を高める「広域道路」として、ネットワークを充実させ、活力ある地域集積圏の形成が期待される。

沖縄市、うるま市、北中城村圏域内の交通ネットワークを強化し、慢性的な交通渋滞の緩和、物流の高速化等利便性を高めるために早期整備が必要とされている。

2) 与勝半島一周線及び庁舎間道路の早期整備要請

中城湾、金武湾など臨海性に恵まれたうるま市は、これら沿岸への都市機能、産業機能が集積しつつあるが、連絡網が脆弱であり、その強化が求められている。また、与勝半島には、国指定史跡である「勝連城跡」、米軍基地である「ホワイトビーチ」があり、原子力潜水艦も寄港するため、安全・安心の確保の点からも緊急輸送道路として、早急に整備する必要がある。

・効率化を徹底的に進める上で重視すべきこと及びその他、道路政策や道路の整備・管理全般に関する意見

1) 国道329号沿線の旧石川市市街地において、電線地中化事業が執行中であり、現状としましては、歩道部には、未だ、電柱等が立ち並び歩行者、特に身障者の通行に支障をきたしており、早期の整備が望まれます。

2) 生活と密着にかかわる道路について

集落の中心を貫き、コミュニティーを育てる道路、平素は、メイン道路として、住民の通行に利用され、語らいの場、地域行事での主会場、災害時の第1次避難場所であり、避難経路となる道路。

3) 観光リゾートへのアクセス

うるま市には観光地として魅力ある風光明媚な景勝地等が数多くあるにもかかわらず、そこへ至る案内施設を含めた道路施設、道路ネットワークの不足によりこれらの観光地としてのポテンシャルを十分に生かしきれない状況である。したがって、市の活性化のためにも早急に観光支援のための道路ネットワークを構築する必要がある。

4) 合併市（2市2町）の地域づくり、市内拠点の連結

うるま市は2市2町が合併して誕生したもので沖縄県においては名護市、国頭村につづく広さを有しているが、市誕生から日が浅く庁舎間道路を含めた市内拠点の連結がいまだに不十分なため、早急にこれらを連結する道路ネットワークを構築する必要がある。

5) 地域内交通の円滑化

石川バイパスの供用で市内の通過交通がバイパスに迂回したことにより市内の渋滞はかなり緩和されたが、一部の道路についてはいまだ朝夕の通勤時等著しく渋滞する箇所もあることから、適切な道路ネットワークを構築することにより地域内交通の円滑化を図る必要がある。

6) 安全・安心な交通の確保

与勝半島南側の生活道路については、いまだ適切な道路整備がなされていないため、地域住民の域内交通と近接する米軍施設関係の車両の混在等により交通事故が多発している状況である。したがって、早急に適切な道路整備を行い事故の危険性を除去するとともに、与勝半島一周線を整備することで市内拠点を連結した道路ネットワークを構築する必要がある。

